

すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 28 年 3 月 8 日 (火) 午後 6 時 30 分～7 時 30 分
○場 所	武蔵野市役所 4 1 1 会議室
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、大杉委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

1 開会

事務局より資料確認

2 委員長挨拶

3 議事

- (1) 第 1 回委員会意見への対応状況
- (2) 平成28年度事業計画について

※運営団体NPO法人いずみの会が入場

<資料 2 「委員会意見への対応状況」、資料 3 「平成 28 年度事業計画書」について説明>
運営団体より説明が行われた。

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

【委員】

小規模保育事業B型への移行に当たり、保育士の確保が難しいと思うが、どのような状況か。一方、地域人材を活用していく意向であったと思うが、専門性の確保とどのように整合を取っているのか。

【いずみの会】

保育士の確保は厳しい状況ではあるが、関係者、知人のつながり等で何とか保育士を採用し、目途がたった状態。「地域」のとらえ方が難しいが、何らかのつながりで関わっている方を地域の人材として活かしていきたいと考えている。

【委員】

現在の利用者数とスタッフの配置の割合はどのようになっているのか。

【いずみの会】

グループ保育事業は 10 名定員に対し、全スタッフ 18 名のうち保育士が 7 名在籍している。必ずすべての時間に保育士を入れて、10 名の子どもに対し 4～5 名のスタッフでのシフトを組む。来年度については、保育士が必ず 2 名いる体制にする予定である。

ひろば事業は 9 名のスタッフでシフトを組んでおり、常に 2 人専任スタッフがいる。一時預かり事業は 15 人スタッフがいるが、朝 7 時から夜 10 時まで、時には宿泊もあるので、

人が足りない場合はグループ保育事業のスタッフに応援を頼んでいる。子ども1人に対して1人のスタッフを付けるようにしているので、スタッフの確保は何とかやりくりをしている状況。

【副委員長】

第1回委員会の提言への対応状況に関して、小規模保育事業への移行準備を進めているということだが、具体的にどのような準備をしているのか。

【いずみの会】

毎月1回のコアスタッフ会議で、子どもの発達に応じた環境はどうあるべきか、といったことをスタッフで勉強している。これまでは1歳児と2歳児で同じ保育内容だったが、そこを分けることを検討している。発達に即して安全面の保障を第一に心掛けている。

【副委員長】

東京都の研修などに参加した際は、結果をスタッフ間で共有してもらいたい、いかがか。

【いずみの会】

研修に出た際には、内容をスタッフで必ず共有している。都の研修以外にも、救命救急講習を受けたり、避難訓練をしたり、不審者対応や衛生管理に関しても意識を強化するよう努めている。

【委員】

スタッフが保育士資格を取得していくことを検討しているか。また、小規模保育事業に移行する中で、連携園とはどのような連携状況となっているか。

【いずみの会】

グループ保育の研修班の中で、保育士資格を持っていないスタッフに対して、資格取得のための勉強法を教えたり、実際に子どもの保育を行う中で、専門的なアドバイスをしたりしている。なるべく資格を取得するよう声をかけており、実際に取得するスタッフもいる。

【事務局】

すくすく泉の平成28年度の連携園については、民間の保育園である「まちの保育園 吉祥寺」と連携を取れるよう話を進めている段階である。健診も同園で受けられることを想定している。3歳児の接続については、市では、小規模保育の卒園時は入所申請の際の加点をすることで、フルタイムの家庭は受け入れができていく状況。

【委員】

地域との連携もアピールポイントになっているが、ひろば事業を中心にそのようなイベントを行っているのか。

【いずみの会】

ひろば事業中心に行っているが、たまたま一時預かりやグループ保育に来ている子どもが参加することもある。今年度はベビーマッサージ、離乳食講座、給食の試食会、読み聞かせ、誕生会、コンサート等を行った。ずっと続けるかどうかはともかく、とにかくやってみるということで色々と実施した。

【委員】

それらの事業には一時預かりの子どもも入っているのか。

【いずみの会】

ひろばと同じ場所で行っているので、企画によっては一緒に楽しむこともしている。一時預かり中の子どもは保育室で一緒に遊ばせたり、グループ保育のお散歩に同行することはある。

【委員】

ひろばでのイベントの際などは、人員がそちらに取られてしまうこともあると思う。利用者がイベントを発案することもあるという話だが、そうした動きが活発なひろばになると良いと思う。

【副委員長】

事業計画に関して、スタッフ賃金を保育士は時給を20円上げると書かれているが、現状では同じ時給なのか。

【いずみの会】

まだ予算が確定していないが、現状は同じ時給であるところを、保育士を確保する必要があることから、20円上げたいと考えている。

【副委員長】

20円しか変わらないのであれば、あまり保育士の資格を取る意味もないということもある。保育士の位置づけが軽いというのは気になるところだ。

【委員】

宿泊の利用者はどの程度いるのか。

【いずみの会】

問い合わせはあるが、実際に利用するのは、2か月に1件くらい。利用者としては1人のみ。市から補助金をもらっているので、コストを度外視して受け入れているが、あまり多いようであれば、負担が大きくなる。

【委員長】

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はここでご退場ください。

※NPO法人いずみの会が退場

<審議>

【委員長】

それでは、いずみの会の説明、質疑応答を踏まえまして、審議に入りたいと思います。まず、前回の委員会の意見への対応状況について、ご意見があればよろしくお願いします。

【委員】

かなり頑張って改善していることがうかがわれた。雰囲気も良いことが感じられる。

【委員】

専門のアドバイザーに来てもらうなどして、改善している。

【委員長】

それでは、前回の委員会の意見への対応状況については、対応が進んでいることを確認したということによろしいでしょうか。

続いて、平成28年度事業計画について、ご意見があればよろしく申し上げます。課題等があれば、その点をしっかり実施してほしいという意見を付けたいと思います。

【委員】

研修に参加する際の費用は、自己負担になるのかどうか、保育士資格は自己負担になると思うが。事業を実施しながら研修を受講するのはなかなか難しいのでバックアップ体制があると良い。

【委員】

小規模保育事業に移行するという事で、人員の確保について市が指導していく必要があると思うが、いかがか。

【事務局】

小規模保育については、認可権限が市にあるので、配置スタッフについては名簿を市に提出してもらい、市からは園長経験者の保育アドバイザー1名を本事業の担当として、実際の状況を確認していこうと考えている。今回はB型なので、半数が保育士という形になる。常時2名の保育体制も、市でシフト等を確認していきたい。入所児童や定員は間もなく決まる見込み。

【委員】

予算もそれまで決まらないということか。

【事務局】

先ほど保育士の時給の話があったが、保育士も国の処遇改善に対する加算制度があるので、それを利用することは考えられる。また、小規模保育のB型になると運営費も増えるので、保育士の処遇については、もう少しできることもあるのではないかと思う。市からも助言していきたい。

【委員長】

細かい追記をするか、「市と連携の上、保育者確保、保育の質向上に努め、着実に実施していただきたい」といった表現にするか、いかがでしょうか。

【委員】

課題として地域との交流が挙げられており、事業計画の中でもボランティアの受け入れ体制についても書かれていたので、そのあたりを課題として加えるべきではないか。

【委員長】

では、まとめたいと思います。「前回意見への対応が進んでいることを委員会として確認した。平成28年度事業計画について、市と連携の上、保育者確保、保育の質向上、地域に開かれた運営ができるよう努めていただきたい。」という意見を付けたいと思います。

(3) 平成28年度の委員会の進め方

【事務局】

第1回の委員会では質問票を事前に提出してもらった形としたが、その結果、委員会が長

時間になってしまった。平成 28 年度については、(A) 質問を事前に集約（質問票は前年度と同じ）、(B) 質問を事前に集約（質問票を簡素化）、(C) 質問を事前に集約しない、のいずれの進め方が良いかを議論してもらいたい。

【委員】

小規模保育事業が入ってくることになるが、その評価は別なのではないかと思うが、一体的に評価を行うのか。また、今後の評価については、現場を見ながら話を聞いて、それに対して評価することができれば良いと思うが、いかがか。

【事務局】

小規模保育については、確かに第三者評価が行われるが、3年に1度になってしまうので、そこをどう考えるか。市としての立ち入り検査は来年実施する予定ではある。

【委員】

では、あくまでも一体的な評価ということで良いか。

【事務局】

各事業間で連携している部分もあるので、そのあたりも含めて、一体的に評価してもらいたい。

【委員】

現場を見に行くことができるかどうかは、日程調整を含めて確認することとしたい。

【委員】

質問票については、全ての項目を書くと量が多くなってしまふ。

【副委員長】

前回同様の質問票でも良いが、全部の項目を書かなくても良いと思う。何らかの形で事前に集約した方が、議事はスムーズだと思う。

【委員】

事前に質問票を出しておけば、説明の際に聞きたい部分を話してもらえるとということか。

【事務局】

そのようになる。

【委員】

そうであるならば、事前の質問票を出したほうが良いと思う。

【委員長】

質問票については、ある程度ポイントを絞って書いてもらったうえで、事務局でもある程度集約するか。

【事務局】

同じ質問もあるので集約する。

【委員長】

では、質問票を簡素化するかどうかですが、ご提案いただいた(B)案についていかがでしょうか。よろしいようですので、平成 28 年度は、(B)案の進め方にしたいと思います。